

2014年3月

医歯薬通信 SANS FRONTIERES vol.15

水戸葵陵高等学校ホームページ <http://www.kiryo.ac.jp/>

はじめに

2014年大学入試も今がたけなわ。今年度も医歯薬コースの諸君が、それぞれの夢の実現に向かって、大いに健闘しています。その中でも特筆すべきは、二人の過年度卒業生の頑張りです。二人はどちらも複数年にわたる浪人生活の末に医学部への合格を勝ち取りました。さぞやその喜びと安堵は想像も及ばぬほどに大きなものでありましょう。このお二人の成果を心から讃えたいと思います。浪人生活に挫けることなく自分の夢を堅持し、その実現に向けて着実に自分の学力を伸ばさせていったその生き様は必ずや彼らの将来の医師としての成功の糧となるに相違ありません。

浪人生活を望む者など一人もいませんし、現役で登龍門を通過するに超したことはありません。しかし、人生、誰しものが世知に長け巧みに、挫折を経験することなく渡っていきけるはずなどありません。踏まれても蹴られても武骨に淡々と、他人の何倍の時間がかかろうとも夢を実現させていく人は本当に信頼するに足る「良医」に変身していく可能性が高いと思うのです。

テレビのニュース映像などに毎年、東京大学等の合格発表で胴上げをされる受験生や喜びの涙を流す受験生の姿が流されますが、その陰でどれだけ多くの受験生が悲しみの涙に泣いていることでしょうか。どうかその流した悔し涙の分だけ強くしなやかに成長し、いつか大輪の花を咲かせて下さい。そして自らの幸福に留まらず社会全体の幸福の実現を担う真のリーダーになってくれることを心から願います。

昭和大学 出張模擬授業

平成25年10月22日(火) 医歯薬コース1年、2年を対象に昭和大学による出張模擬授業が開催されました。

講師：昭和大学 スペシャルニーズ口腔医学 教授 高橋 浩二先生
社会健康薬学 衛生薬学 准教授 中谷 良人先生

「私は今まで、歯科医というと歯科医院で歯の治療をするイメージがほとんどでした。しかし、今回の講演を聴き、歯だけに限らず、口内ケア、嚥下障害など、幅広い分野で仕事をしていることを知り、驚きました。(…)治療をするということは手術をするばかりではなく、補助器具などの装置を用いることで改善することができるということを知りました。」(生徒感想抜粋)



を学びました。(…)先生がおっしゃるとおり、他の人の人生に意味のある貢献をするということは、医療人としてあるべき姿、使命であると強く印象に残りました。」(生徒感想抜粋)

第1回医師講演会

平成25年10月4日(金) 1, 2年生を対象に、茨城県立中央病院 総合診療科医長 関 義元先生



による第1回医師講演会を実施しました。「現役の医師に何でも聞いてみよう！」という演題で、生徒から寄せられた質問に具体的にお答えいただきました。

「茨城県の医療の現状についての説明を聞き、改めて他の都道府県に比べ、患者一人に対する医師の数の少なさに衝撃を受けました。(…)医師に求められるものは勉強だけではない、患者さんのことを第1に考え、想うことだと再確認することができました。」(生徒感想抜粋)

第2回医師講演会

平成26年2月17日に、1, 2年生を対象とした第2回医師講演会を実施しました。筑波大学附属病院病院教授の瀬尾恵美子先生、「地域医療とは」



を演題として、筑波大学と茨城県の連携で行われている地域医療などについて詳しく講演されました。また茨城県の周産期医療の現状や女性医師のキャリアアップなど茨城県の医療の現状についての講演が行われました。茨城県の医療についての実状知ることができ、茨城県の医療従事者になるにあたっての志気を高めたようです。

クラスマッチ

平成25年10月18日(金)すがすがしい秋晴れの
中見川総合運動公園体育館、軟式球場を使用して実施。

男子はソフトボール・ドッジボール。女子はバレー・ドッジボール。午後はクラス対抗による大縄跳び・二人三脚走を行った。日頃の連携の成果が勝敗を決める種目が多く、特に二人三脚では担任もメンバーに加わって競技。館内が歓声の渦に包まれ、悲喜交々あり大いに盛り上がった。

修学旅行

平成 25 年 11 月 25 日（月）から 12 月 1 日（日）の 5 泊 7 日の日程でパリ・ロンドンへの修学旅行に 2 年生 54 名が参加しました。



フランスではベルサイユ宮殿やノートルダム寺院、モンサンミッシェルなどを歴史と情緒を感じながら見学しました。最も印象的だったのは教科書でしか見ることのなかったモナ・リザを間近で見られたことで、その素敵な表情と周りを取り囲む独特な雰囲気は生涯忘れることはないでしょう。イギリスでは大英博物館のスケールに圧倒されたり、

班別自主研修として地下鉄を乗り継いで見学地を目指すなど日本との違いを直接感じる事ができました。また、期間中に誕生日を迎えた私のためにプレゼントが用意されており、みんなでケーキを分けたことも良い思い出です。事前研修は十分取り組みましたが、本物を自分の目で見ることや予想外のことをみんなで解決できた経験は今後の高校生活において大きな財産になると実感しています。

いのちの学習会

平成 26 年 2 月 22 日（土）いばらき腎バンクより講師派遣を頂き、いのちの学習会を開催しました。今回の学習会には生徒だけでなく、保護者方も参加を頂きました。見目政隆先生といばらき腎バンクのコーディネーターの柳田陽子先生をお迎えし、「命をつなぐために」と題して、臓器移植に関する講演会を行いました。見目先生は、日本では「助からない」と医師に言われた息子さんへの心臓移植を求め、仕事を退職し家族で渡米。移植を受けて息子が回復した矢先、今度は娘さんが同じ病を発症し二度の臓器提供をアメリカで受けた経験から、様々なことを語って下さいました。「日本では医師に助からないといわれた。でもアメリカの医師は外国人への臓器提供のルールを変えてまで、目の前に苦しんでいる人命を助けたいという使命感を持って仕事をしてくれた。最後まであきらめないで信じて道を探せば、道は開ける。この使命感を医療従事者を目指す生徒諸君は忘れてはいけない。」という言葉に生徒は強い感銘を受け、医療人を目指す者としての倫理観について考えさせられたようでした。



医学セミナー 病院見学会

平成 25 年 11 月 16 日に医師体験を兼ねた病院見学が実施されました。他校からの参加者もあり、県内における医学に対する関心の高さが伝わりました。院内の見学に加えドクターヘリや救急車の見学などもあり、医療現場における時間の感覚、意識の高さを感じました。また、最近の医療では新生児治療が発展著しく、増加傾向にある低体重新生児と母親を早い段階から治療・サポートする体制を学びました。これから生まれてくる新生児にも一人の人間として正面から立ち向かう医療の責任と重要性について再認識しました。

かさまマラソン ボランティア



平成 25 年 12 月 15 日（日）第 8 回かさま陶芸の里ハーフマラソン大会に歯薬コースの 1 年生 30 名がボランティアとして参加しました。給水係・交通整理係・記録証発行係、商品交換係などを受け持ちました。生徒の感想は「初めてマラソンボランティアに参加したが、マラソンは走っているランナーだけではなくボランティアも一緒に感動できる。色々な年代の方々が一生懸命走っているのを見て元気をもらえた。今回は初めてでわからないことも多かったので改善点を考えて来年も参加したい。」などの声が聞かれました。」次回は恒例の「日立さくらロードレース」のボランティアに参加します。

河合塾 医学部面接講座

平成 25 年 11 月 8 日（金）河合塾松戸校校舎長渡邊郁夫先生による医学部志望者に対する面接講座が実施された。渡邊先生は数多くの医学部受験生を指導しており、本校の生徒に対しても適切なアドバイスをいただいた。1 人約 1 時間に亘り、模擬面接およびその好評をしていただき、本番に向け新たな反省点が見つかったことで大きな収穫のあった 1 日であった。

冬期課外

平成 25 年 12 月 23 日～ 27 日までの 5 日間冬季課外を実施。短期間ではあったが、実践問題を中心に長時間の演習に臨むことで集中力を養うとともに、自身の弱点を見つけてそれを克服し、実力アップを図った。

推薦図書

『医療大転換—日本のプライマリ・ケア革命』（ちくま新書）

葛西龍樹 著

皆さんは病気になった時に、まず初めにどこの病院にかかるだろうか？最近ではあまり聞かれなくなったが、以前は街の医者だと不安なので、大病院に行くなどという言葉をしばしば耳にする。その為に、大病院はいつも混雑しているイメージがないだろうか？この事態そのものが日本における一次医療（プライマリ・ケア）の立ち後れを表している。筆者は、プライマリ・ケアを担う家庭医と従来のかかりつけ医の違いや、家庭医の充実により改善される事例を多く用いて分かりやすく説明している。その中でも、先の震災で起きた事例については、プライマリ・ケアの整備を強く考えさせられる出来事である。また、これだけ必要性を説いている家庭医が、なぜ日本で整備されてこなかったか影の部分も包み隠さず書かれている。テレビなどでは手術など表舞台で活躍する医師だけでなく、それ以上に大事な普通の生活に密着した「家庭医」の役割、プライマリ・ケアの必要性について考えるきっかけとして欲しい。